

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2024

と き 令和6年10月31日(水)・11月1日(金)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

まつ お み や の は な ・ ま つ お は た け い せ き

松尾宮ノ花・松尾畑遺跡 岡山市北区松尾

岡山市北区松尾に位置し、南に流れる中川の東岸の、西向き尾根裾に立地している集落遺跡です。

今回の発掘調査は、山陽自動車道吉備スマートインターチェンジ改築事業に伴って実施されました。調査区は尾根裾を南北に延びる現在の道路の西側を「西区」、道路東側の尾根裾に形成された2段の段々畑部分を上からそれぞれ「東区」、「中区」、段々畑の南側を上る山道部分を「道路区」とし、それぞれ個別に調査を行いました。調査面積は約700㎡です。

調査の結果、西区からは、東西に延びる溝と等高線と平行に南北へ延びる溝が検出されました。また溝の周囲には、柱穴と推測されるピットが複数確認されました。出土遺物からこれらの溝や柱穴は古代の範疇にあると判断されます。

また道路区からは、東から西へ下る斜面上で、等高線に沿って南北に延びる溝と、溝の下方から柱穴と思われる直径10～50cmのピットが複数確認されました。この溝はその出土遺物より平安時代の遺構と判断され、またその周辺のピットも、溝の時期に近い古代の範疇にある遺構と推測されました。

東区及び中区は、段々畑造成に伴う地形改変により遺跡は全て削平されたものと考えられました。

調査の結果松尾宮ノ花遺跡・松尾畑遺跡は、古代の集落の一部であることが確認されました。今回調査した部分は遺構の密度から、その集落の末端である可能性が高いと考えられます。松尾地区周辺に分布する複数の遺跡のうち、現在まで本格的な調査が実施されているものはほとんどなかったため、今回の調査によりこの地域における遺跡の様相の一端が明らかになりました。

よし の ぐ ち い せ き

吉野口遺跡 岡山市北区吉備津

吉備津神社の北西部の微高地上に位置する遺跡です。過去の調査により、縄文時代晩期から近世まで連続して遺構が集中する集落遺跡であったことが判明しています。

今回の調査は、遺跡地内のマンホール埋設工事に伴う調査で、調査区内で溝とピットを確認しました。

つくりやま こ ふん

造山古墳 岡山市北区新庄下

古墳時代中期の築造と考えられる墳長350mの前方後円墳で、全国第4位の規模を有します。岡山市教育委員会では平成26年度より、造山古墳群の保存整備を目的として範囲等確認調査を継続的に実施しています。

造山古墳の墳頂は備中高松城水攻めの際に砦として利用されており、後円部墳頂付近には曲輪や土塁、竪堀など当該期の遺構が残っています。

令和5年度は、昨年度に引き続き造山古墳墳頂部の保存・整備に先立って、城郭など当該期の遺構を確認するため、後円部墳頂の中心から北西と南西方向に向かってL字型のトレンチを設定し、調査を行いました。

後円部中心付近では柱穴と土坑を数基検出し、トレンチの南西端では土塁が古墳築造後の盛土上に構築されている様子を確認しました。昨年度からの調査により、後円部墳頂は古墳築造後に、全面的に改変・利用されていることが明らかになりました。

みなみ か た か ま た い せ き

南方釜田遺跡 岡山市北区国体町

岡山市北区国体町の微高地上に位置する遺跡であり、過去の調査で弥生時代中期を中心とする大規模な集落跡が見つかっています。

今回の調査はマンション建設に伴う調査で、土坑や柱穴を複数基検出しました。

まん と み と う だ い じ か わ ら が ま あ と

万富東大寺瓦窯跡 岡山市東区瀬戸町万富

岡山市東区瀬戸町万富に所在する窯跡群で、吉井川右岸の低丘陵を中心に築かれています。鎌倉時代の源平合戦の折に焼失した東大寺を再興する際に使用した瓦を焼成した窯跡として学史的にも著名です。国の史跡に指定されており、過去に岡山県教育委員会や瀬戸町教育委員会により調査が行われています。岡山市教育委員会では、令和3年度より窯跡の保存整備事業として範囲確認調査を始めました。

令和5年度は過去に発見された窯跡や遺構の正確な位置と規模の確認と、未調査地点の遺構分布状況の把握を目的として大寺山地区の北側の調査を行いました。

調査では、瀬戸町が調査を行った窯S0-1の焚口～燃焼室付近を確認しました。この窯のすぐ東側で、平成7年の墓地造成時に分焰牀が確認されており、窯S0-1も、大寺山地区南側の瓦窯と同構造・同規模のものと思われます。また、窯S0-1の斜面下部では灰原を確認しました。未調査地点である遺跡地斜面部北端では、遺構は検出できませんでしたが、攪乱坑内から瓦窯操業後の遺物が出土しました。

